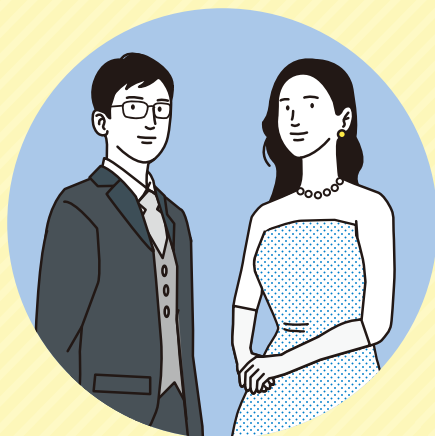


人生設計応援プロジェクト

# ライフデザイン

ガイドブック



# ライフデザインの大切さを 自分ごと化する・考える

結婚

出産

子育て



埼玉県では、18歳から20歳代の未婚者である若い世代に対して、ライフデザインに関する意識調査を行い、多くの方が結婚や出産、子育てに不安を感じていることが分かりました。

こうした若い世代が、結婚・妊娠・出産、子育て、仕事を含めたライフプランを希望通り描いていけるようにするため、埼玉県では、株式会社 Enana とともに若い世代に向けて、ライフデザインを知ってもらう、自分ごととして考えてもらう取り組みを行っています。ライフデザインのベースとなる正しい知識を身に付けるセミナー、実際に生まれ育った環境とは違った家族イメージを持てるような経験を通して自分の将来を考えるきっかけにする家族留学等の両輪が必要だと考えています。

セミナーでは、結婚や子育て、家族の形など日本の現状を事実ベースで伝えるようにしています。参加者の中には、親世代が経験してきた一昔前の家族や子育てをイメージされる方もいれば、地方から上京し、都会とのギャップに驚き、そもそも自分が都会で子育てをするイメージができないという方もいます。そういった方々に対して、「〇〇が正解」と言うのではなく、事実に基づく現状を伝えることで、現実と乖離した理想を掲げ、その後「こんなはずではなかった」と後悔することを減らしたいと考えています。

家族留学や施設見学では、実際にセミナーなどで学んだことを、体験を通して自分ごと化して、将来をより主体的に考えるきっかけにしています。実際に自分以外のご家族からリアルなお話を聞き、子どもたちと触れ合うことは自分の当たり前や普通を考え直す機会になります。セミナーなどで学んだ事実とともに、自分以外の家族とリアルに接することで、自分が将来直面することかもしれないと、肌で感じられるのではないかと考えています。

# ライフデザインに関する意識調査

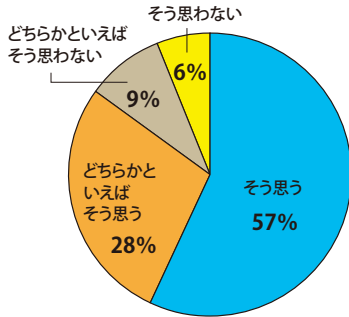
若い世代のライフデザイン構築を支援するため、ライフデザインに関する不安や、希望するライフプランを調査しました。

【調査実施期間】平成30年6月28日から平成30年7月15日まで

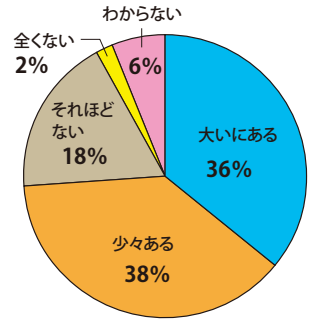
【調査対象者】18歳から20歳代の未婚の男女 【回答数】268件

## 結婚に関する調査

将来結婚したいと考えていますか

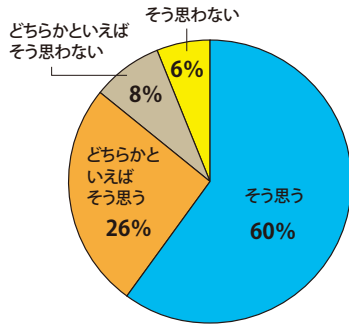


結婚の希望を実現する上で不安がありますか

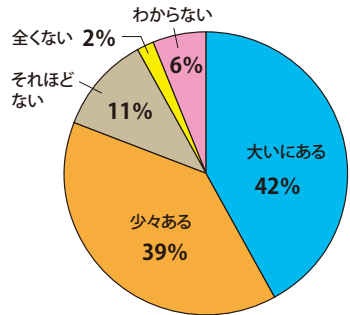


## 出産・子育てに関する調査

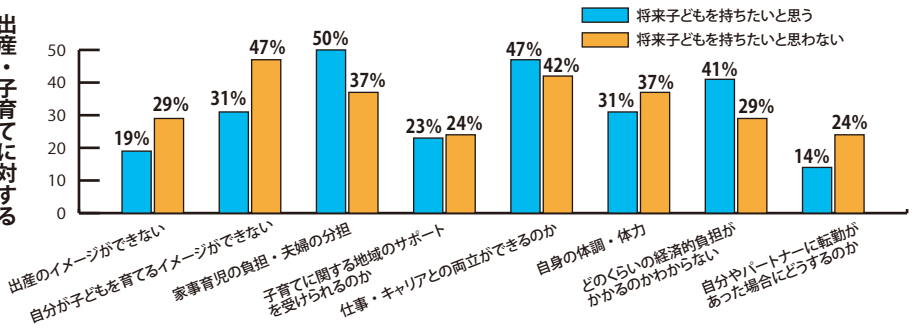
将来子どもを持ちたいと考えていますか



出産・子育てに対して不安なことはありませんか



出産・子育てに対する具体的な不安



# ライフデザインは

## 将来を考えることではない。

## 今を正しく知ること。

ライフデザインを考えることの重要性について、株式会社manaの新居代表から天野氏にお話を伺いました。

### 時代とともに変わる

#### ライフデザイン

**新居** 昔からライフデザインを考えることは大切だったと思うのですが、最近その重要性が増してきている背景を教えてくださいませんか？

**天野** 親御さんの世代と若い世代で大きく環境が変わってきているからです。例えば、2019年時点で、非農林業においては68%が共働き世帯、32%が専業主婦世帯というのが現状です。

**新居** 1997年でちょうど世



天野馨南子 ニッセイ基礎研究所 人口動態シニアリサーチャー  
東京大学経済学部卒。日本証券アナリスト協会認定アナリスト(CMA)。1995年日本生命保険相互会社入社、1999年から同社シンクタンクに転出。1児の母で、不妊治療・長期の介護も経験。専門分野は人口動態(とくに少子化)に関する社会の諸問題。内閣府少子化関連有識者委員、地方自治体・法人会等の人口関連施策アドバイザーを務める。エビデンスに基づく人口問題(少子化対策・人口動態・女性活躍・ライフデザイン)講演実績多数。著書に『Before/Withコロナに生きる 社会をみつめる』(ロギカ書房)、『データで読み解く「生涯独身」社会』(宝島社新書)等

帯割合が逆転しているんですよ。  
**天野** こういう話をしたときに、地方に住む高校生や若い世代の方に驚く方が本当に多いんです。「自分も働き続けたい、そして、結婚もしたい」と強く希望している方は多いんですが、ご両親や祖母のイメージがもとになりがちで、漠然とした想像しかできない

んですよ。若い世代を取り巻く環境が変わっても、ライフデザインは親の世代が考えるイメージをベースにしてしまう状況は最近になっても変わっていないんです。  
**新居** 男性が稼いで女性が支えるという社会から、女性も稼ぐし昔のように男性ばかりが稼げる社会じゃなくなってきましたよね。それなのに、仕事か子育てかの二者択一で人によっては「子どもが欲しいので仕事は辞めようと思います。」と言う人もいます。

**天野** 85年施行の男女雇用機会均等法や92年施行の育児休業法が成立する前は、女性が男性と同じように就業することが難しい労働

## なぜライフデザインが重要か

親世代が生きてきた時代と今の若者が生きてる時代は大きく違います。労働環境に関する法律が大きく変わり、女性の進学率や就業率は向上しました。男性も仕事だけやっていけばいいという時代ではありません。家族や働き方が増えて、幸せの形もより多様になってきているのです。型にはまった幸せを追い求めるのではなく、自分で自分の幸せを見つけていかなければいけません。しかし、若い世代が将来を想像するときに真っ先に参考にするのは親や先生です。それぞれの将来に正解はありませんが、今の時代の実態を知っていれば「こんなはずじゃなかった」と後悔することも少なくなるかもしれません。ライフデザインは多様な時代になったからこそ、自分にあった幸せを見つけるために必要なものなのです。

環境でした。お母さんが働く場合は、教職や看護師など免許職の仕事が多かった。そのような両親世代を見て育ってきた30歳より上の世代の方たちは男女関係なく稼ぐ2人の姿を想像するにも限界があるんですね。

**新居** しかし、近年女性も職場に参画をして、共働きが増えてくる中で、親世代とは違う結婚・子育て・仕事のあり方を考える必要が出てきたんですね。だからライフデザインが重要になってきているんですね。

**天野** どういう形の家族が正しいということではなくて、ベースとなる環境の事実を知った上で「選べる」ことが本当のライフデザインだと思っんですね。

## 理想の形は一つじゃない、 現実は大バイバシテイ

**新居** 多様なライフデザインを考える上で、私達はどのようなことに取り組んでいけば良いのでしょうか？

**天野** 上の世代をモデルにする

ことよって、本当は他にもあるはずの選択肢を取りに行けないといった思い込みを緩和していくという地道な作業が必要だと思いますよ。若い世代に、みんなが気づいていない夫婦像をどんどん見せてあげてほしいです。

**新居** 女性が医者になって、男性は専業主夫になるといった家庭もあれば、男性が育児を取るの当たり前だと考える家族もある。夫婦や家族の形もどんどん多様性が増していますよね。

**天野** 女性だけではなく、男性にも多様なライフコースを紹介してあげて欲しいということですが、夫という立場ではこれまでにはなかったような働き方をされている男性も少なくありません。男性の働き方が変わって、意識が変わることによっても、女性のライフデザインへの考え方が変わるんですね。

**新居** 性別や職業的なルールに囚われずに、柔軟に役割を変えながら家族を維持していくという考え方を実践している男性もいる。しかし、まだまだ希少価値の高い

魚を釣ったみたいに言われることもあります。

**天野** 客観的・俯瞰的なデータを見れば、現実が分かります。私達が普通だと思っていることも多様な夫婦や家族の形が実際に現れてきているんです。

**新居** 男性も女性も、夫婦や家族の形は一つの形だけじゃないんだよって知っていくことが大切だと思いますよね。

## 自治体だからこそ

## 若者の声に気付ける

**新居** 改めて適切な知識を皆さんに提供した上で、多様な選択肢から選んでいくことが重要だなど思ったのですが、地方自治体を取り組むことの意義や必要性を天野先生はどのように考えていますか？

**天野** 各自治体において、家族への考え方や社会風土は全然違っているはずなので、マクロ的なデータが示す客観的な家族イメージとミクロな実経験からその自治体

で感じられがちな家族イメージにはズレがあるわけです。そのズレを分かってあげられるのは自治体しかないと思います。

**新居** 例えば、どういったことがあるのでしょうか？

**天野** とある地方から東京へ出てきた20代女性のお話ですが、地元での結婚後の女性のイメージはパートが専業主婦しかないとおっしゃるわけです。その方は仕事もしたいけれど、その想像が地元ではできないということで、地元か



ら離れた、そういうことが現実  
に起っています。

**新居** 企業ではなく自治体かや  
るべき理由は何だと思えますか？

**天野** やはり企業はどうしても  
個々の利益を最優先に追求します。  
そうだとすると、自治体が一番自  
分のエリアを客観的に見る事が  
できるはずで。住民の生活を支  
える自治体として、「この場所に  
とどまって暮らしても、自分の未  
来が開きされることや狭まること  
はないんだ」ということが若い



世代に伝わる施策を発信・実行し  
ていただきたいな、と思えますね。

**新居** 埼玉県もライフデザイン  
に取り組む必要性がありますか？

**天野** 2019年で見ると、47  
都道府県うち、39の道府県の人口  
が転出超過で減っているんですよ。  
転入超過で人口を増やしたのは8  
の都府県に過ぎないんです。39の  
道府県から転出した人が行き着く  
先は、東京が5割以上を占めるん  
ですが、これに神奈川、埼玉、千  
葉を含むと92%を超えます。

特に東京、神奈川、埼玉とい  
うのは転居によって人口を集め続け  
ているエリアなんです。さらに、  
コロナの影響で東京の24年ぶりの  
転出超過の発生が目目されています  
が、その転出先の半分は神奈川  
か埼玉が占めているんですよ。東  
京・神奈川・埼玉においては20代  
人口の転入超過が続いています。  
東京一極集中の立役者は、ほぼ1  
00%、20代人口なのです。コロ  
ナの有無にかかわらず20代の人口  
が集まってくる埼玉県では、特に  
ライフデザインに関する取り組み  
が必要だと思っています。

20代人口が多いということは、  
言い換えれば、このエリアのライ  
フデザイン教育が日本の未来を作  
ると考えることもできます。

### 初めにやるべきことは、

### 大人に正しいライフデザ

### インの知識を広めること

**新居** 市町村単位でライフデザ  
インに関する施策を行おうと思っ  
ても、大規模なことはできないと  
思うのですが、何から始めればい  
いのでしょうか？

**天野** 若い世代に直接ライフデ  
ザインを教えることもある程度の  
効果はありますが、まずは親御さ  
んや学校の先生の意識を変えるよ  
うな施策を地道にやっていくこと  
が効果的だと思います。

子どもたちを取り巻く環境・空  
気を変えていくことが大切なんで  
す。子どもが考えたライフデザイ  
ンを一緒に考えてあげられる大人  
が近くにいなければ、ライフデザ  
インを考えても、その実現可能性  
が引き下げられかねません。

**新居** 確かに、子どものときに

ライフデザインを急に考えると  
わかれても、自分の親や先生くらい  
しか想像できる人物がいなかった  
気がします。

**天野** そうなんです。子ども  
の立てたライフデザインが現実と  
照らし合わせてどうかなえていけ  
るのか、叶えるための別の方法が  
ないのかなど、一緒に悩んであげ  
られるといいですよ。まずは、  
子どもに影響を与える大人たちが  
正しいライフデザインの知識を持  
つことは非常に重要です。

**新居** 今はライフデザインにつ  
いて教科書にもそこまで詳しく書  
かれていないんですよ。

**天野** だからこそ、市町村単位  
でもできることとして、例えば、  
親子双方に向き合うことが可能な  
教育関係者の皆様にライフデザイ  
ンの講義を受けていただいたり、  
理解してもらう施策などが効果的  
かなと、私は思いますね。

**新居** まずは、本当に地道なと  
ころからということですね。

**天野** 変わる余地のある人が一  
人でもいるのであれば、根気よく  
やるべきだと考えています。

# 若い世代の ライフデザイン 構築支援事業



## 事業概要

若い世代（10代後半から20歳代）が、結婚・妊娠・出産、子育て、仕事を含めたライフプランを希望どおり描けるように支援し、自身の人生設計を考える様々な機会を提供するため、平成30年、令和元年の2年間実施しました。

## 事業プログラム

この事業では、参加者がライフデザイン構築を効果的に行うことができるよう、次のプログラムを実施しました。

- 事前ワークショップ
- 家族留学
- 施設見学（産婦人科、保育施設等）
- 事後ワークショップ
- ライフプランセミナー

## 記入例

	20代	30代	40代	50代
<b>Family</b>	《専業主婦》 専業主婦になった 家族の形 夫一人、 独身の妻など 専業主婦 とどかない 結婚が望みに いた 夫はほ ぼかす交際 で済める	子どもの人財、夢実現、大切にしたいこと、夫婦の役割分担など 24歳くらいで第一子 出産	結婚もしつつも専業主婦 第二子出産	専業主婦は 家族維持
<b>Work</b>	専業主婦、 専業主婦のイメージ 専業主婦 専業主婦	25歳は仕事を辞め たい	キャリアは専業主婦が 仕事もしたいが 専業主婦も無理な くない	専業主婦で働く
<b>Place</b>	専業主婦の 専業主婦 専業主婦 専業主婦	専業主婦の方がいいけど、 子育ては専業主婦の方がいいと思う		

## 事前ワークショップ

今回の事業では、家族留学や施設見学の前に、知識を得るための事前ワークショップを行っています。

事前ワークショップでは、今の自分がどのようなライフプランを考えているのかを言語化し、これから参加する家族留学や施設見学で、自分がどのよ

うなことを知りたいのかを考えることを目的としています。

言語化することで、自分が今まで漠然と考えていた将来のありたい姿などが目に見えてわかり、整理して考えられるようになるという効果があります。また、参加者同士で発表しあうことにより、自分では気づかなかつた視点や考え方に触れる機会を提供してま

<p>参加の意義・ゴール設定</p> <p>子育てと仕事の両立の不安軽減、子育ての視察を知る</p> <p>目標達成のため、家族留学と施設見学で聞きたいこと・知りたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな仕事を続けながら、子供との時間を大切にしたいことについて</li> <li>・育児中での就業先の仕方</li> <li>・配偶者との学業費負担の分担とどのようにルールを決めているのか</li> </ul>
---

# 家 族 留 学



## 家族留学とは？

将来、ライフデザイン選択の岐路に立つ若い世代が、仕事については考える機会があるのに対し、「ライフ」について考える機会が少ないため、若い世代のための家庭版 OBOG 訪問として『家族留学』を提供しています。「結婚して、子どもも欲しいけれど、仕事でも活躍したい・・・」「自分の母は専業主婦だから、仕事をしながらの子育てはイメージできない」「子育てって実際どういう感じなの？」と疑問を持っている若い世代に、子育て家庭へ一日「留学」する家族留学に参加してもらうことで、親と交流し、育児体験を通して自らのライフキャリアの選択や悩みのヒントを得る事業です。

※家族留学は株式会社 manma が提供するプログラムです。





子育てって  
どんな感じ？

仕事と子育ては  
どう両立する？

結婚して、子どもも  
欲しいけれど、  
仕事でも活躍したい



### 【進行例】（午前の場合）

- 10：00 指定場所で待ち合わせ
- 10：30 公園で子どもと遊ぶ
- 11：30 家庭へ移動
- 12：00 昼食をとりながら両親の話を聞く
- 13：30 子どもの習い事の送り
- 15：00 解散

参加者は受入れ家庭を訪問し、子育てについて具体的なイメージを持てるよう、子育て家庭の普段通りの日常に触れていただきます。また、参加者と受入れ家庭が昼食やお茶を一緒に取りながら、結婚、出産、子育て等について、お話を伺う機会を設けています。

こうした受入れ家庭との交流を通じて、参加者は自身のライフデザインを見つめなおし、将来についての考えを深めていきます。



# interview

家族留学の受け入れをされているご家庭(父・母・姉・弟の4人家族)にインタビューを行いました。



行なうルールなので常に平等に分担しています。

**Q** 時間の使い方でご家庭のルールはありますか？

**A** 我が家は優先順位を決めています。仕事の時間と家族全員の時間が1番、2番目が嫁や子どもとの時間、3番目が自分の時間です。

**Q** 将来こういう家族になりたいという考えはありますか？

**A** 家族全員が共通で持っているのは「正解は無いからまずは色んな事をやってみよう。迷った時は全員が笑える事を正解にして進んでいこうね」と「お金持ちになるより笑いの絶えない家族になろう」です。

**Q** なぜ受け入れ家庭登録をしようと思ったのですか？

**A** 自分が大学生の頃このような授業があったら良かったのにと感じただけです。

今の大学生は、自分の親、バイト先の人、同世代の学生と話す事が中心となっているのではないかと思います。そういった方々から聞いた話だけが「正解」ではないと伝えたいという想いがありました。

**Q** 実際に受け入れをしてみた感想を教えてください。

**A** 参加者に答えが無くとも不安にならなくていいと感じてもらえたことが嬉しかったです。

例えば、自分が見えている世界だけで価値観や判断軸が創り上げられている子に対して、「誰もが未経験で誰の内容も正解だと思っただから〇〇さんのやり方を見付けたら自分にも教えて欲しい」というメッセージを送りました。

**Q** ご自身や参加者の親世代の夫婦のイメージと、実際のご自身の間にはどのような違いがあると思いますか？

**A** 親世代は、大家族じゃないと生活できないイメージです。

自分の世代のイメージは、共働きをしないと生活が出来ない家庭が増えたと思います。

**Q** 家庭でのトラブルはどのように対応していますか？

**A** 基本は何もありません。1日放置して、それでも収まらない時はノートに文句を書き殴ります。相手に感情をぶつけないのが我が家のルールです。

**Q** 結婚をして変化したことは何ですか？

**A** 自分の時間の使い方です。

「自分の好きなように使える時間」から「妻と私の好きなように使える時間」と変化しました。妻との時間を先に考えて、残った時間を自由な時間と考えるようになりました。

**Q** 出産を機に変化したことは何ですか？

**A** 女性に対する尊敬の気持ちです。恋愛の時は裏切られたり、ひどい別れも経験しました。しかし、出

産に立ち会えた事で過去の思いは一掃されました。また同時に、産まれるまでの大変さを味わえない自分(男)が情けなくも思いました。

**Q** 家事や育児はどのように分担していますか？

**A** 私達はお互いの分担を明確に分けています。お互いの得意なこと、苦手なこと、好きなこと、やって

みたいことを全部出し合った上で、相手に任せること自分が行うことを決めました。相手に何かしてもらう際には、相手の何かを自分が

# 施 設 見 学

(産婦人科、保育施設等)



子育て学級見学の様子

結婚、妊娠・出産、子育て、仕事を含めたライフプランを描いていくためには、それぞれのライフイベントを知ることも重要になります。そのため、この事業では、産婦人科、保育施設等を訪問し、見学することを通じて、参加者がこれからのライフイベントについての知識を深められるよう支援しています。

## 産婦人科見学

実際に妊娠するまで訪れる機会の少ない産婦人科を訪問し、施設の様子を見学し、職員の方々に出産に関するお話を伺います。

参加者は、出産を予定する方々と一緒に子育て学級へ参加したり、赤ちゃんの沐浴やおむつ替えの見学を通じて、座学や写真だけでは分からない出産というライフイベントについての知識を深めていきます。

また、実際これから親になる世代の話を聞き、乳児や設備を間近に見て、出産について、それまでよりも身近に感じ、前向きになる参加者が多いのが特長です。



## 保育施設等見学

少子化が進む中でも、共働き世帯の増加等から保育所等の利用児童数は年々増加しており、今後多くの方が利用することが予想されます。そのため、この事業では、保育所や子育て支援拠点（※）と

いった子育て家庭が利用する施設を訪れ、子育て中の親子との触れ合いを通じて、子育ての知識を得る機会を提供しています。

保育所見学では、これまで子どもたちと接する機会が少ない参加者も、屈託のない子どもたちからの遊びのお誘いですぐに打ち解ける様子が印象的です。参加者は園内の設備の見学だけでなく、子ど

もたちと一緒に給食を食べ、保育所内の様子や自分が将来子どもを持つイメージを描いていきます。

また、子育て支援拠点の見学では、参加者は子どもとの交流だけでなく、拠点OB・OGの夫婦が、妊娠中の夫婦へ、妊娠中・出産後のアドバイスを行うサロンへも参加し、各ライフイベントへの知識を深めます。



子育て支援拠点見学の様子  
(相談室で職員が施設について説明)

※子育て支援拠点…子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場です。



保育所見学の様子



# 事後ワークショップ



事後ワークショップの様子

各プログラムを実施後、参加者は、事後ワークショップに出席し、ワークシートを活用し、各プログラムで学んだことや自分の気持ちの変化などを考え、グループで意見を共有します。

また、事後ワークショップでは、ファイナンシャルプランナーやキャリアコンサルタントから、将来のお金やキャリアについて話を聞く「ライフプランセミナー」も実施しています。

## ライフプラン セミナー

キャリアコンサルタントが講師を務め、現在と10年後の自分の役割を考え、意見を共有します。そのうえで、参加者は自分にとって大切なこと、その達成のために必要なことをワークシートに記入

**(ワーク) 自分の役割**

○現在の役割を記入しましょう

【現在の自分】      【10年後の自分】

※(可能な限り深くかかせる状態)  
○(まったく関わらない状態)

▶ ライフプランセミナーのワーク

**(まとめ) 今後のキャリアプラン**

▶ ライフプランセミナー資料

し、自分がどのようにキャリアを考えているかを見つめ直していきます。

キャリアは人それぞれであり、正解や間違いはないという説明を受けたうえで、各参加者が意見を共有し、様々な考え方があつたことを学び、それぞれのライフデザインを見つめなおす機会としています。

# interview

続いて、家族留学を経験した参加者（19歳・女性・大学生と20歳・女性・大学生の2名）にインタビューを行いました。



**Q** 参加する前後での考え方にどんな変化がありましたか？

**A** 仕事と子育ての両立に対して漠然とした不安がありました。実際に家族留学を経験して、「自分ももしかしたら仕事と子育ての両立ができるかもしれない」とポジティブに考えることができるようになりました。

**A** 子育ては大変で辛いというイメージ、仕事との両立は難しく精神的にも負担が大きいものと思っていました。しかし、参加後は夫婦で協力することの大切さを実感しました。協力するからこそ、仕事をしながら子育ても楽しめ、自分の時間を確保することができると学びました。

また、子どもが欲しいなーと考える時間が増えました！

**Q** 参加する前はライフデザインをどのようにイメージしていましたか

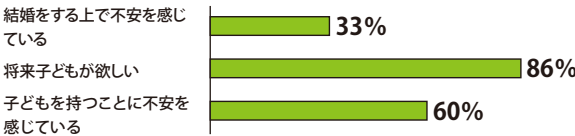
**A** 子どもと接することが苦手であることや親の姿を見て子育てにネガティブなイメージを強く持つていたことから、私は将来子どもを持つことを希望していませんでした。結婚はせずに、自分のしたい仕事をバリバリしよう！と考えていました。

**A** 自分のライフデザインを想像したほうが良いと思っていましたし、話を聞くことはありました。しかし、未来の自分を想像することが難しく、イメージできていません

家族留学やライフデザインに関するセミナーを行った結果、参加者の方々にどのような心境の変化があったのかをご紹介します（平成30年度参加者回答）。

## 【参加前】

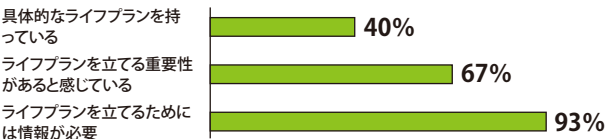
### 【結婚・子育て】



#### 【主な意見】

不安要素として「経済的な負担」「パートナーとの関係性」「社会から理解を得られるか」などが挙げられました。

### 【ライフプラン】



#### 【主な意見】

ライフプランを持つ上での障害は「ロールモデルがない」「情報が足りない」でした。

でした。また、自分の人生計画はどんどん変わっていく可能性が高いのになんで決めるんだろうと思っていました。

**Q** 参加したあとで生活や進路選択に影響がありましたか？

**A** 家族留学をきっかけに苦手だった子供が好きになり、シッターを始めてみました。まだ大学生なので、日常生活における大きな変化はありませんが、自分自身のライ

フプランに対する考え方は間違いなく変わりました。

**A** 自分がこれからどうしていきたいのか、何を大切にしていきたいのかというのを考えるようにになりました。家族留学での体験やセミナーでライフデザインに関する情報に触れたことで、未来の自分を想像しやすくなったと感じています。

## 【参加後】

### 【結婚・子育て】



### 【ライフプラン】



全参加者がライフプランを立てることは重要だと思いい、そのためには正しい情報を得ること、相談できる場や人が必要であると回答しました。

### 【ライフデザイン構築支援カリキュラム】



#### (カリキュラムの感想)

- 1.自分の将来だけではなく社会全体の将来のことでも考えるきっかけになった。
- 2.家族留学のみではなく、事前・事後のワークショップや施設見学のプログラムを通して、他の参加者と学びを共有できるのが良かった。

## 結婚を希望する方に出会いの機会を提供！ 埼玉県公的結婚支援センター「恋たま」



埼玉県では平成30年10月に「SAITAMA出会いサポートセンター(通称:「恋たま」)」を設立し、結婚を希望する方への支援を行っています。

#### 出会いの機会を提供する「恋たま」の特長

##### ① AIが出会いの機会を提供、いつでもどこでも活動できる！

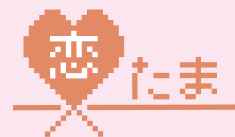
「恋たま」では、お会いしたい相手を検索、申込みする方法に加え、AIの活用により相性の良い相手の紹介を受けることができます。AIからの紹介は成婚の約半数を占めており、多くの出会いの機会を提供しています。また、コロナ禍であっても、オンラインで時間や場所にとらわれず、ご自身のペースでの活動が可能です。なお、「恋たま」への登録は県内に在住、在勤、または近い将来県への移住をお考えの方を対象としています。

##### ② 相談員による伴走支援体制！

県内3か所にセンターを設置しており、相談員が登録者のお見合いや交際といったマッチング活動をサポートしています。

##### ③ 官民連携によるセンター運営でリーズナブルな利用登録料を設定！

詳細は「恋たま」ホームページで確認ください。



SAITAMA出会いサポートセンター「恋たま」

令和3年3月 初版発行



発行：埼玉県福祉部少子政策課  
〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3-15-1  
TEL 048-830-3343  
FAX 048-830-4784

デザイン・構成：株式会社埼玉新聞社

制作協力：株式会社 manma